

**B08** グルココルチコイドホルモンによるPEPCK遺伝子の転写調節機構

杉山隆, 中山

倫紀子, 前川有香, 日下秀人, 川口香, 菅谷  
亜弓, 豊田長康 (三重大学医学部産婦人科)

ホスホエノールピルビン酸カルボキシキナーゼ (PEPCK) は肝糖新生における律速酵素として重要である。本酵素の活性はその転写により調節され、グルココルチコイド(GC)は本遺伝子の転写を誘導する。今回我々はGCによる本遺伝子転写調節について検討した。GCの反応には本遺伝子プロモーター内に存在するGC受容体(GR)応答エレメントを含む複数の応答配列とこれらに結合する転写因子群が必要である。まずGCに対する転写因子間の相互作用を検討し、さらにこれら転写因子群とステロイドホルモンの転写調節に重要な介在因子との相互作用も検討した。その結果、GCに対する転写誘導誘導にはGRと転写因子であるHNF3との相互作用が重要であり、またGRのみならず HNF-4やCOUP-TFIIが介在因子と相互作用することが判明した。本遺伝子のGCによる転写誘導はそのプロモーター上に存在する転写因子間の相互作用のみならず、転写因子と介在因子の相互作用も重要であることが判明した。